

日々の田高（１年生の保健の授業）

「がんの予防と回復」の内容について、ジグソー法を活用して行いました。ジグソー法は、自分が調べて学んだ内容を他のメンバーに説明するため、内容を自分事ととらえ能動的に考える力が鍛えられます。今回は、保健の授業での取り組みを紹介します。

【エキスパート活動：専門家づくり】

はじめの活動として、クラスを４～５人の８グループに分けます。

各班は、①がんとその発生要因②がんの予防と早期発見③がんの治療法④がんに関する社会的な取り組みの中から分担し調べます。各班は、teams内で同時編集できるパワーポイントを使用しスライドを完成させます。班の中では、生徒一人一人がほかのグループの生徒に説明できるように内容の共有をします。

【ジグソー活動】

前回の班を解体して、新しい班を８つ作ります。それぞれの新しい班は、上記の①から④のテーマを調べた人（専門家）が入るように調整します。一人３分の持ち時間で、前回の班で共有した内容を説明していきます。

【発表・共有】

最後に、がん予防について、①自分ができる取り組み②がん検診の普及③検診以外の社会的取り組みの三点について班ごとに話し合い、teams上で共有されているexcelシートに入力していきます。教員から、各班で出た意見を共有し、まとめの言葉の後、授業は終了します。

生徒たちは、自分に与えられたテーマを自分の言葉で他の班員に語る姿が印象的でした。身近なようで、実際のところはよくわからないことに「がん」について、自分なりの切り口で迫り、他の班員に説明することを通じて、学びを深めていきます。

